

社会を形成する一人として必要な資質

北海道女満別高等学校

教諭 須藤智昭

全国的な選挙のあった翌日に、「昨日は全国的に大きなことが行われましたが、分かりますか？」との問いにほとんどの生徒が知らない顔。しばらく時間が経ってから、「選挙」との声がちらほら聞こえてくる。そして、「昨日の夜は選挙速報の番組ばかりだったけど見た人？」の問いには、「見てない。」「テレビが面白くなかったので携帯をさわった。」「早く寝た。」との答え。選挙に興味がないのは普段の授業で感じていたが、ここまでとは思ってもいなかった。それから、「どのようにすれば興味をもてるのか、少しでもいいから選挙の番組を見るようになるのか。」と考え始めるようになった。

まず、最初に考えたのは、選挙自体は何となく理解していても、仕組みを理解していないから興味がわかないのではないかということだった。それならば、簡略化して、実際に投票すれば、少しは選挙が身近なものになるのではないかという考えに至った。それから教材研究を重ね、複雑な選挙制度を伝える時に、どこの部分を残し、どこの部分を削ればいいのか検討を重ねた。そして、授業で実際に模擬選挙を行ってみた。その際、各候補の公約を掲載したプリントを配付し、どの候補者に当選してほしいか考えさせてから投票させた。すべての生徒が真剣に誰に投票するかを考え、投票用紙に記入した。その雰囲気から「やはり仕組みを理解すれば、興味をもてるようになる。」と確信した。最近では、選挙の話題にとどまらず、社会で起きている事件や事故、社会問題を生徒側から聞いて来るようになった。

18歳から選挙権が与えられるようになり、高校生は、選挙に関して興味を持つ段階ではなく、「一人の国民として投票する＝政治に参加する」自覚を持たなければいけなくなった。近年、問題になっている投票率の低下はまさに、18歳になって最初の投票の時にどれだけ興味関心を持てるかにかかっていると考えられる。この問題に対処するためには、選挙の仕組みを理解し、より身近なものとして考えさせていかなければいけない。

学校での授業を実社会とどれだけ近づけるかが生徒の興味を惹きつける鍵となる。学んだことを実際に体験して初めて知識となり深い学びになる。これからも多くの授業で、体験的な学びを取り入れ、社会を形成する一人として必要な資質を養っていきたい。

